

## 9 保育福祉科 夜間主コース 土曜クラス 2年次

	講 義 名	開講時期・単位数	
		前 期	後 期
保育士養成課程 教 養 科 目	英語コミュニケーション		2
	日本国憲法		2
	児童文学		2
	情報機器の操作		2
保育士養成課程 必 修 科 目	相談援助	1	
	保育者論		2
	家庭支援論	2	
	保育内容演習・健康	1	
	保育内容演習・人間関係	1	
	保育内容演習・環境	1	
	保育内容演習・言葉	1	
	保育内容演習・表現	1	
	障害児保育	2	
	保育相談支援		1
	保育実践演習		2
保育士養成課程 選 択 必 修 科 目	教育史		2
	保育臨床心理学		2
	子どもの食と栄養実習	1	
	保育あそび論		2
	絵画造形技法		1
	保育表現技術・言葉	1	
	保育表現技術・幼児体育Ⅱ	1	
	保育表現技術・ピアノⅢ	1	
	保育表現技術・声楽		1
保育実習指導Ⅱ又はⅢ	1		
	キャリアデザイン		1
	クラスルームⅡ		1
実 習	保育実習Ⅰ-1		2
	保育実習Ⅰ-2		2
	保育実習Ⅱ又はⅢ		2
合 計 単 位 数		15	29
		44	

科 目	英語コミュニケーション	講 師	金藤 明美
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉だけに頼らない「コミュニケーション」活動を通して、英語への苦手意識を軽減し、英会話を楽しむ。</li> <li>・保育現場で重要な子供達を励ます言葉、ほめる言葉などを学び、使えるレベルまで訓練する。</li> <li>・バリエーションのある挨拶表現と初対面を想定した会話内容を学び、使えるレベルまで練習する。</li> <li>・机上だけでなくアクティブな活動・歌・チャンツなど、様々な方法で英語表現を習得する。</li> <li>・英語絵本に慣れ親しむ。</li> <li>・指導者として有意義な情報をシェアする。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「保育現場における英語教育の現状」[コミュニケーションKeys]</li> <li>2. 「保育英検」</li> <li>3. 「小学校英語活動（授業）」</li> <li>4. 「海外で活躍する日本人保育士」</li> <li>5. 「ケアギバー・ナニー・チャイルドマインダー」</li> <li>6. 「マルチプルインテリジェンス」</li> <li>7. 「ハローウインの由来」</li> <li>8. 中間テスト</li> <li>9. 「日本語と英語 発音の相違」</li> <li>10. 「フォニックスチャンツで発音意識」</li> <li>11. 「国名：世界幸福度ランキング」</li> <li>12. 「海外の保育：子供幸福度ランキング」[絵本読み聞かせ]</li> <li>13. 最終試験①（口頭試験）</li> <li>14. 最終試験②（筆記試験）</li> <li>15. 絵本読み聞かせ大会</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……指定教科書特になし  <b>参考書</b> ……特になし		
評 価 の 方 法	出席率・中間テスト（筆記）・最終試験（①口頭試験 ②筆記）・絵本読み聞かせ		

科 目	日本国憲法	講 師	小関 康平
授業目標	<p>授業内容は、最高裁判例・学界通説を基軸とした日本の現行憲法（日本国憲法）の解釈論が中心となる。授業は、原則として講述（講義）の形式によって行われるが、学生諸君の準備学修や前提知識の程度が高い場合などには、ソクラテス・メソッド（教員と学生との対話）によって進行させることがある。</p> <p>本科目の学修は、経験的にいって、学生諸君にとって極めて負担の大きいものになることが予測されるので、毎回の講義に際しては十分な予習・復習のうえ真剣に取り組むことが強く求められよう。本科目は、最終的には、主要なテーマについて重要な憲法学的知見（基本概念や判例・学説など）を論述できるようになることを目標に据えている。</p>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス及びイントロダクション</li> <li>2. 法学入門</li> <li>3. 憲法総論 1（憲法の意味と分類；欧米国制史・憲法史①）</li> <li>4. 憲法総論 2（欧米国制史・憲法史②；日本憲法史）</li> <li>5. 基本権総論（基本権享有主体性；私人間適用 [第三者効力]）</li> <li>6. 基本権各論 1（自由権 [特に精神的自由権を中心に] ①）</li> <li>7. 基本権各論 2（自由権 [特に精神的自由権を中心に] ②）</li> <li>8. 中間総括</li> <li>9. 基本権各論 3（社会権①）</li> <li>10. 基本権各論 4（社会権②；その他の個別的基本権及び包括的基本権①）</li> <li>11. 基本権各論 5（その他の個別的基本権及び包括的基本権②）</li> <li>12. 統治機構論（統治機構論のうち学生の希望するテーマを講ずる）</li> <li>13. 全体総括 1（半期間の学修を振り返る）</li> <li>14. 全体総括 2（学修定着度をみるため期末試験を実施する）</li> <li>15. 全体総括 3（期末試験の答案について講評する）</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	指定教科書を定めるか否かについては未定。初回講義時に必要事項を案内する。参考書は、体系書としては、芦部信喜『憲法』（岩波書店）、野中俊彦ほか『憲法Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣）、池田実『憲法』（嵯峨野書院）などを、判例集としては、『憲法判例百選Ⅰ・Ⅱ』（有斐閣）などを推奨する。		
評 価 の 方 法	原則として主に論述問題で構成される期末試験の評点のみに基づいて評価する。なお、補足的に、平常点を考慮することがありうる。		

科 目	児童文学	講 師	川北 亮司
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>*ことばについての理解を深める。</li> <li>*絵本や童話を学ぶ。</li> <li>*幼児・幼年向けの作品を知る。</li> <li>*手づくり絵本を制作する。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 授業内容と進行の説明</li> <li>2. 子どもと児童文学</li> <li>3. いろいろな絵本</li> <li>4. 手づくり絵本の制作(1) 手づくり絵本とは</li> <li>5. 絵本の構造(1) 名称など</li> <li>6. 手づくり絵本の制作(2) コピー用紙でダミー作り</li> <li>7. 絵本の構造(2) 中身について</li> <li>8. 手づくり絵本の制作(3) 画用紙に描く</li> <li>9. 絵本の構造(3) 表紙の厚紙とカバー、見返し</li> <li>10. 手づくり絵本の制作(4) 画用紙に描く</li> <li>11. 手づくり絵本の制作(5) 画用紙に描く</li> <li>12. 手づくり絵本の制作(6) 製本</li> <li>13. 手づくり絵本の制作(7) 製本</li> <li>14. 手づくり絵本の発表会 (リブリオ・バトル)</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……特に指定なし  <b>参考書</b> ……特に指定なし		
評 価 の 方 法	総合評価		

科 目	情報機器の操作	講 師	南部 英子
授業目標	<p>保育現場で必要とされる基礎的な情報機器の活用法を習得することを到達目標とする。  実習を通して、実践的なオフィスソフトの操作に慣れ親しむと同時に、情報を正しく安全に取り扱う姿勢、教育と情報機器活用についても理解を深める。  グループワーク等を通して、主体的対話的に課題に取り組むことを経験する。  (進捗により内容・順序を調整する場合あり。)</p>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 文書作成1 (お知らせ文作成)</li> <li>3. 文書作成2 (見栄えのする文書作成)</li> <li>4. 文書作成3 (小冊子の作成)</li> <li>5. まとめ小テスト・情報モラルグループワーク</li> <li>6. 表計算1 (表作成・簡単な計算)</li> <li>7. 表計算2 (集計・グラフ・印刷設定)</li> <li>8. 表計算3 (名簿管理・日誌作成体験)</li> <li>9. まとめ小テスト・情報セキュリティグループワーク</li> <li>10. 適切な文書ファイル管理</li> <li>11. プレゼンテーション1 (スライド作成の基本・配布資料)</li> <li>12. プレゼンテーション2 (動きのあるスライド作成)</li> <li>13. プレゼンテーション3 (グループで作成)</li> <li>14. 総合課題 (プレゼン実施・実施概要レポート・振り返り表作成)</li> <li>15. 課題提出・教育と情報機器活用</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……特に指定なし。適宜、資料配布。  <b>参考書</b> ……特に指定なし。		
評 価 の 方 法	小テスト・課題・平常点 (出席状況・授業参加度)。		

科 目	相談援助	講 師	今泉 岳雄
授業目標	<p>保育者は、子どもの保育だけでなく、子育てや様々な生活課題に悩む家族をソーシャルワークの視点から援助することが今日求められている。ここでは、援助の基礎となる課題のアセスメント、専門機関との連携、相談援助の技術、援助者としての自分についての理解の仕方などについて学ぶ。また、保育所以外の児童福祉施設における課題や相談援助の在り方を知る。授業方法は、講義以外にロールプレイ・ディスカッション・事例検討など、演習を取り入れ、体験的に理解することを重視する。</p>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 今日の子ども・子育て家庭の問題と相談援助</li> <li>2. 相談援助者となるための自己覚知①</li> <li>3. 相談援助者となるための自己覚知②</li> <li>4. 相談援助に必要な知識と技術①（アセスメント・エコマップ・社会的資源の活用）</li> <li>5. 相談援助に必要な知識と技術②（傾聴・あいづち・共感・プローブ）</li> <li>6. 相談援助に必要な知識と技術③（解決への方向付け）</li> <li>7. 相談援助に必要な知識と技術④（記録・援助計画・専門機関との連携）</li> <li>8. 相談援助に必要な知識と技術⑤（相談援助の過程・保育者の特性を生かした相談援助）</li> <li>9. 児童虐待への対応と事例</li> <li>10. 発達障害への対応と事例</li> <li>11. 子どもの発達と心理的問題の対応と事例</li> <li>12. 保護者の抱える育児・生活・心理的課題への対応と事例</li> <li>13. 保育所以外の児童福祉施設における課題と相談援助</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 試験</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<p><b>教科書</b>……特に指定なし 資料配布</p> <p><b>参考書</b>……『演習・保育と相談援助』みらい</p>		
評 価 の 方 法	試験・受講態度・出席状況により総合評価		

科 目	保育者論	講 師	平岩 由美子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者の制度的に位置づけられた役割・職務を自覚する</li> <li>・保育者の専門性について考察し、理解する</li> <li>・保育者の協働について理解する</li> <li>・保育者の専門職的成長について理解する</li> <li>・保育者に求められる倫理・責任について学び、自己を振り返りながら保育者として成長しようとする姿勢や使命感を持って保育をしようとする態度を養う</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 保育者の仕事における〈見えやすい専門性〉と〈見えにくい専門性〉</li> <li>3. 保育者の倫理観 保育者が醸し出す〈倫理的雰囲気〉と子どもへの影響</li> <li>4. 保育者の専門性① 養護と教育を一体的に行う保育</li> <li>5. 保育者の専門性② 子どもへの思いや育ちを理解して援助する役割</li> <li>6. 保育者の専門性③ 保育記録と省察の意味</li> <li>7. 保育者の専門性④ 映像教材による保育の省察</li> <li>8. 保育者の専門性⑤ 豊かで主体的な子どもの生活を創り出す環境を構成する役割</li> <li>9. 保育者の専門性⑥ 保育技術体験演習</li> <li>10. 保育者の協働① グループワーク演習発表</li> <li>11. 保育者の協働② 子育てのパートナーとしての役割</li> <li>12. 保育者の協働③ 保育者同士の保育カンファレンスによる学び合い</li> <li>13. 保育者の専門職的成長① 保育者の専門性を向上させるために（自己課題研究準備）</li> <li>14. 保育者の専門職的成長② 自己課題研究発表</li> <li>15. 保育者の専門職的成長③ 自己課題研究発表</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<p><b>教科書</b>……『新しい保育講座2 保育者論』汐見稔幸・大豆生田啓友編 ミネルヴァ書房 『保育所保育指針』</p> <p><b>参考書</b>……特に指定なし 毎回プリントを配布</p>		
評 価 の 方 法	出席状況・受講態度（個人・グループワーク）・課題提出・発表・テスト等による総合評価		

科目	家庭支援論	講師	前川 洋子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保育者が家庭支援を担う意義と役割について理解する。</li> <li>・現代の子育て家庭について理解する。</li> <li>・支援の必要な家庭を理解し、その支援を考える。</li> <li>・児童福祉施設における家庭支援について理解する。</li> <li>・家庭支援に関わる関係機関を学び、保育者の関わり方を考える。</li> </ul>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家庭の意義と機能 家庭支援の必要性</li> <li>2. 家庭支援の必要性 子どもが育つ場としての家庭</li> <li>3. 保育者が行う家庭の原理</li> <li>4. 現代家族の人間関係と子育て</li> <li>5. 現代の地域社会変容と家庭支援</li> <li>6. 男女共同参画社会とワークライフバランス</li> <li>7. 子育て支援施策・次世代育成支援施策の推進 子育て家庭の福祉を図るための社会資源</li> <li>8. 子育て支援サービスの概要</li> <li>9. 子育て家庭の福祉を図るための社会資源</li> <li>10. 家庭と保育者の連携とパートナーシップ</li> <li>11. 地域の関係機関との協働と連携</li> <li>12. 保育所入所児童の家庭への支援</li> <li>13. 地域の子育て支援家庭への支援</li> <li>14. 特別な対応を要する家庭への支援</li> <li>15. 総まとめ 試験</li> </ol>		
教科書及び参考書	<b>教科書</b> ……『実践 家庭支援論 第3版』松本園子他（著）ななみ書房 2017.1 <b>参考書</b> ……コンパクト版保育者養成シリーズ『家庭支援論』谷田貝公昭（監修）一藝社 2018.2		
評価の方法	出席・レポート・平常点（50%）+試験（50%）による総合評価		

科目	保育内容演習・健康	講師	松森 照幸
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの心身の発達について、知識を得、健康に関する理解を深める。</li> <li>・自分が常に保育の現場に立った時を想定し、健康とは何かを理解し実践力を身に付ける。</li> <li>・保育者として実践的アイデア・工夫を生み出し、基礎を作る。</li> <li>・幼児自身に安全に対する意識を形成するための指導法を学び考える。</li> </ul>		
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 子どもの健康について</li> <li>3. 領域「健康」のねらいとは</li> <li>4. 領域「健康」の内容とは①</li> <li>5. 〃 ②</li> <li>6. 他の領域との関係</li> <li>7. 子どもの遊びとは</li> <li>8. 子どもの心身の発達について①</li> <li>9. 〃 ②</li> <li>10. 子どもの安全・健康に対する管理と教育</li> <li>11. 基本的な生活習慣・・・・・・・・①</li> <li>12. 〃 ・・・・・・・・②</li> <li>13. 〃 ・・・・・・・・③</li> <li>14. 子どもの遊びの大切さと子どもとの関わり</li> <li>15. 試験 ※授業の内容は進み具合によって変更する場合があります。</li> </ol>		
教科書及び参考書	<b>教科書</b> ……特に指定なし <b>参考書</b> ……特に指定なし		
評価の方法	出席状況、受講態度、レポート、ミニテストによる総合評価		

科 目	保育内容演習・人間関係	講 師	齋藤 三喜子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「人間関係」におけるねらいと内容を理解し保育者の役割を学ぶ。</li> <li>・人間関係における乳幼児期の個々の発達、他児との関係の発達を理解する。</li> <li>・様々な事例を考察し保育者として子どもの心に寄り添う保育を学ぶ。</li> <li>・保育を取り巻く人間関係について実践を踏まえ理解を深める。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 授業のねらいと進め方</li> <li>2. 領域「人間関係」のねらいと内容について</li> <li>3. 人とのかかわりを培う保育の基本</li> <li>4. コミュニケーションゲーム</li> <li>5. 乳児期における人間関係（0歳児から2歳児）</li> <li>6. 乳児期の人間関係における保育者の援助と役割（0歳児から2歳児）…G.W①</li> <li>7. 乳児期の人間関係における保育者の援助と役割（0歳児から2歳児）…G.W②</li> <li>8. 幼児期における人間関係（3歳児から5歳児）</li> <li>9. 幼児期の人間関係における保育者の援助と役割（3歳児から5歳児）…G.W①</li> <li>10. 幼児期の人間関係における保育者の援助と役割（3歳児から5歳児）…G.W②</li> <li>11. コミュニケーションゲーム</li> <li>12. 気になる子どもの人間関係作りと援助</li> <li>13. 講師を招いての講義</li> <li>14. 乳幼児期の人間関係における今日的課題</li> <li>15. 試験</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……【新版】保育内容『人間関係』神蔵幸子・桃枝智子著 大学図書出版 <b>参考書</b> ……『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』		
評 価 の 法	出席状況、授業態度、課題の提出、発表、試験等による総合評価		

科 目	保育内容演習・環境	講 師	中村 美奈子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「環境」のねらいと内容、育むものについて理解する。</li> <li>・人、物、場、などが相互に関連し子どもの生活を豊かにする環境構成を理解する。</li> <li>・具体的事例や実践、環境構成を通して、子どもの自主性主体性の形成を学ぶ。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. ガイダンス</li> <li>2. 心にのこる遊びとは</li> <li>3. 「環境」に関わる現代社会の状況</li> <li>4. 保育内容に示される「環境」の領域において育むもの</li> <li>5. 保育における「環境」の大切さ</li> <li>6. 好奇心、探究心を育てる環境</li> <li>7. 物的環境としての園具、遊具、素材</li> <li>8. 人的環境としての友だち、保育者</li> <li>9. 自然環境</li> <li>10. 社会環境</li> <li>11. 地域、行事に関わる保育的意義</li> <li>12. ねらいを達成するために保育者が行う具体的事項①</li> <li>13. ねらいを達成するために保育者が行う具体的事項②</li> <li>14. 試験</li> <li>15. まとめ ※内容は授業の進み具合によって変更することもあります</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……指定なし、プリント配布、授業内で配布したプリントはまとめておく <b>参考書</b> ……指定なし、授業の中で紹介する		
評 価 の 法	出席状況、授業態度を重視し、課題提出、試験などによる総合評価		

科 目	保育内容演習・言葉	講 師	齋藤 三喜子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・領域「言葉」のねらいと内容を理解しそれを達成するための保育者の具体的な援助を学ぶ。</li> <li>・言語面における乳幼児期の個々の発達、他児との関係の発達を理解する。</li> <li>・様々な事例を考察しまた実践を通し、先を見通した言葉による保育を学ぶ。</li> <li>・児童文化財と子どもの成長の関わりを理解する。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 授業のねらいと進め方・言葉とは何か</li> <li>2. 領域「言葉」のねらいと内容について</li> <li>3. 「言葉」における具体的内容について</li> <li>4. 乳幼児時期の言葉の発達について（0歳児から2歳児）</li> <li>5. 乳幼児時期の言葉の発達について（3歳児から5歳児）</li> <li>6. 保育者としての言語面における援助とかかわりについて（0歳児から2歳児）…G.W</li> <li>7. 保育者としての言語面における援助とかかわりについて（3歳児から5歳児）…G.W</li> <li>8. 言葉の遅いと思われる子の対応と援助について</li> <li>9. 児童文化財を通しての援助とかかわり</li> <li>10. 言語表現実技演習①</li> <li>11. 言語表現実技演習②</li> <li>12. 言語表現実技演習③</li> <li>13. 言語表現実技演習④</li> <li>14. まとめ</li> <li>15. 試験</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……【新訂】『子どもと言葉』岡田明編 萌文書林 <b>参考書</b> ……『保育所保育指針』『幼稚園教育要領』 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』		
評 価 の 方 法	出席状況、授業態度、課題の提出、発表、試験等による総合評価		

科 目	保育内容演習・表現	講 師	二木 秀幸
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表現の研究を軸に、子どもの表現の育ちと保育者の役割について学ぶ。</li> <li>・あそびの中から表現する術を理解できる。</li> <li>・さまざまな実践課題を通して、表現活動に必要な技術を身につける。</li> <li>・子どもの表現活動に対する指導方法を習得する。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション 授業内容とポイントの解説／“表現”とは</li> <li>2. 子どものうた(1) いろいろな歌をうたう（手あそび・歌あそび）</li> <li>3. 子どものうた(2) 保育における歌を考える・子どもへの歌の指導法について／まとめ</li> <li>4. 様々な素材を使った表現(1) 詩を素材としてあそぶ（グループワーク）</li> <li>5. 様々な素材を使った表現(2) 詩を題材とした創作（グループワーク）</li> <li>6. 様々な素材を使った表現(3) 詩を題材とした創作作品の発表/まとめ</li> <li>7. 様々な素材を使った表現(4) 絵本を素材としてあそぶ（グループワーク）</li> <li>8. 様々な素材を使った表現(5) ミュージカル作品を素材としてあそぶ(グループワーク)</li> <li>9. 様々な素材を使った表現(6) ミュージカル作品を題材とした創作（グループワーク）</li> <li>10. 様々な素材を使った表現(7) ミュージカル作品を題材とした創作作品の発表/まとめ</li> <li>11. 総合的な表現/保育ごっこ “ごっこあそび” “劇あそび・劇” を考える</li> <li>12. 様々な表現を織り交ぜた作品の創作(1) 素材の研究・準備（グループワーク）</li> <li>13. 様々な表現を織り交ぜた作品の創作(2) リハーサル（グループワーク）</li> <li>14. 様々な表現を織り交ぜた作品の創作(3) 発表会</li> <li>15. 振り返りと総まとめ/表現活動の指導方法</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……『5訂版 歌はともだち』教育芸術社 <b>参考書</b> ……『改訂 ポケットいっぱいのおうた』など音楽等の授業で使用している歌の本		
評 価 の 方 法	出席状況、受講態度、レポート及び発表等による総合評価 ※動きやすい服装・靴で履修のこと（必須）		

土保  
曜育  
ク福  
ラ社  
ス科  
2年  
次

科 目	障害児保育	講 師	前川 圭一郎
授業目標	以下、3点を授業目標にする 〈目標〉 1. 「障害」とは何かを学び、インクルーシブ教育を実践する上で必要な知識を身につけることができる 2. 各障害の正しい知識の獲得と障害の状態像を理解することができる 3. グループ学習を通して、支援に必要な方法を互いに検討し合うことができる		
授 業 の 画	1. オリエンテーション 2. 「障害」とは何か 3. 知的障害の理解と支援 4. ダウン症の理解と支援 5. 発達障害の歴史と展開 6. ASDの理解と支援Ⅰ 7. ASDの理解と支援Ⅱ 8. ADHDの理解と支援Ⅰ 9. ADHDの理解と支援Ⅱ 10. SLDの理解と支援Ⅰ 11. 保育における環境調整の支援 12. 個に応じた「支援」についてⅠ 13. 個に応じた「支援」についてⅡ 14. インクルーシブ教育に向けて 15. 試験		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……特になし  <b>参考書</b> ……授業でその都度、紹介を行う		
評 価 の 方 法	授業態度、出席を重視し、期末に行われる試験レポート等による総合評価		

科 目	保育相談支援	講 師	齋藤 三喜子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育者として保育相談支援の必要性及び意義について理解する。</li> <li>・ 保育者の専門性を生かした子育て支援の役割を学ぶ。</li> <li>・ 保育相談支援の方法、技法を習得する。</li> </ul>		
授 業 の 画	1. オリエンテーション 2. 保育相談支援の意義 3. 保育相談支援の基本 4. 保育所における相談支援の実際 5. 事例検討① 6. 事例検討② 7. 事例検討③ 8. 相談支援の方法と技法① 9. 相談支援の方法と技法② 10. 相談支援の方法と技法③ 11. 保育所以外での保育支援相談 12. 関係諸機関との連携、協力 13. 家族が抱える問題の理解 14. まとめ 15. 試験		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……『保育相談支援の基本と留意点』坂本健著 大学図書出版  <b>参考書</b> ……なし		
評 価 の 方 法	出席日数、授業態度、課題の提出、発表、試験による総合評価		



科 目	保育実践演習	講 師	富金原 光秀
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育実践における現代の問題意識を持ち、解決に至る為の方法について調査及び研究発表を行う。具体的な課題に対して複眼的に思考し意欲を持って取り組む態度を養う。</li> <li>・ 個別指導を交えながら、主題の設定、資料・情報の収集、論点整理、中間報告、口頭発表について順次行う。</li> <li>・ 議論や討論を重ねて、他者を尊重するとともに論理的思考力を身につける。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育を取り巻く現状認識と問題関心の理解</li> <li>2. 主題の設定 ～テーマを絞り込む～</li> <li>3. 情報及び資料の収集と整理</li> <li>4. 調査研究・情報の分析</li> <li>5. 中間報告に向けての個別指導</li> <li>6. 自己課題についてのブレインストーミング</li> <li>7. 中間報告及びディスカッション①</li> <li>8. 中間報告及びディスカッション②</li> <li>9. 中間発表の点検、評価、改善</li> <li>10. 論点整理と情報、資料の再収集</li> <li>11. 研究発表の為の個別指導①</li> <li>12. 研究発表の為の個別指導②</li> <li>13. 発表及びディスカッション①</li> <li>14. 発表及びディスカッション②</li> <li>15. まとめ</li> </ol>		
教科書及び参考書	<b>教科書</b> ……特に指定なし 授業中に適宜資料を配布 <b>参考書</b> ……特に指定なし		
評価の方法	出席状況、受講態度、発表の際の表現力、論理的思考力、提出物		

科 目	教育史	講 師	相田 まり
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 過去の教育思想をその社会背景と併せて理解することで、今日の教育がいかにしてつくり上げられてきたのか、そこにはどのような課題があるのかを把握する。</li> <li>・ 授業の中で得た知識や考え方をもとに、日々の保育・教育実践について自分なりに考察できるようになる。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. イントロダクション：なぜ教育史を学ぶのか</li> <li>2. 古代ギリシア：哲学的伝統の確立</li> <li>3. 近代の幕開けと「子ども」の発見：コメニウス、ルソー</li> <li>4. 自己形成の援助としての教育：ペスタロッチとフレーベル</li> <li>5. 近代学校の成立：学校に通うということ</li> <li>6. 新教育運動：子ども中心主義</li> <li>7. 戦時下の教育：国民学校と総力戦体制</li> <li>8. 日本の戦後教育①：民主化への歩みと「社会科」の誕生</li> <li>9. 日本の戦後教育②：高度経済成長と「学力」低下問題</li> <li>10. 現代の教育①：グローバル社会における教育</li> <li>11. 現代の教育②：インクルーシブな社会を目指して</li> <li>12. 現代の教育③：生涯学習社会</li> <li>13. 現代の教育④：「道徳」の教科化</li> <li>14. 現代の教育⑤：正解のない問いと向き合う</li> <li>15. 試験</li> </ol>		
教科書及び参考書	<b>教科書</b> ……特になし <b>参考書</b> ……適宜指示する		
評価の方法	出席状況、コメントシート、試験を踏まえて総合的に評価する。		

科 目	保育臨床心理学	講 師	前川 圭一郎
授業目標	以下、3点を授業目標にする 〈目標〉 1. 子どもの「こころ」について考えることができる 2. 子どもの問題行動への関わり方や家庭への支援方法について考えることができる 3. グループ学習を通して、自己への理解や他者への理解を深めていくことができる		
授 業 の 画	1. オリエンテーション 2. 「こころ」とは何か〈私的出来事を考える〉 3. 認知的な発達について 4. 性格と知能について 5. 適応と不適応について 6. 子どもの問題についての理解と対応Ⅰ 7. 子どもの問題についての理解と対応Ⅱ 8. 子どもの問題についての理解と対応Ⅲ 9. 子どもの問題についての理解と対応Ⅳ 10. 大人の問題についての理解と対応Ⅰ 11. 大人の問題についての理解と対応Ⅱ 12. 子育て支援について 13. 多職種連携について 14. 自己理解とケアについて 15. 試験		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……特になし <b>参考書</b> ……授業でその都度、紹介を行う		
評 価 の 方 法	授業態度、出席を重視し、期末に行われる試験レポート等による総合評価		

科 目	子どもの食と栄養実習	講 師	高尾 優
授業目標	子どもの食と栄養で学んだことを基礎に、実際に献立の作成や調理を行い、子どもの食について実践する力を身につける。 乳汁期から幼児期にかけて、食事の形態がどのように変化していくのか、どのように調理するかを具体的に学習する。 幼児食実習を通して子どもにとってバランスの取れた食事とはどんな食事なのか理解する。 近年増加している食物アレルギーの子どもへの対応について学ぶ。 クッキング保育、食育媒体の作成を行い、食育を実践できる知識と技術を学ぶ。		
授 業 の 画	1. 子どもの食と栄養 2. 保育所の食事、献立作成と栄養計算 3. 乳児期の栄養について 4. 調乳実習 5. 離乳食について 6. 離乳食実習（5～6か月、7～8か月） 7. 離乳食実習（9～11か月、12～18か月） 8. 幼児期の栄養について 9. 幼児食実習1（幼児期の食事） 10. 幼児食実習2（アレルギーがある子どもへの対応） 11. 食育について 12. クッキング保育計画（子どもと一緒に作る食事を考えよう） 13. 食育媒体作成 14. クッキング保育実習 15. まとめ、レポート提出		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……『発育期の子どもの食生活と栄養』（学建書院） 『はじめての食品成分表』（女子栄養大学出版社） <b>参考書</b> ……特に指定なし		
評 価 の 方 法	出席、テスト、提出物（レポート等）、授業態度を総合的に評価する。		

科 目	保育あそび論	講 師	菊地 政隆
授業目標	<p>保育では5領域が小学校の教科のように分断されて行われるのではなく、子どもたちが園で繰り広げていく日々の生活や遊びの中に各領域の側面が埋めこまれている。そのため発達と5領域のかかわりを見据えながら総合的に保育を理解することが保育者に求められる。本講義では現場の園長である強みを活かし、毎回実践事例や保育実技を織り込みながら保育内容を総合的に捉える視点を養っていくとともに保育を展開していくための保育者としての資質と指導法を身につけることを目的とする。さらにゲストスピーカーを招聘し様々な角度から保育を考える視野を広げ、毎日の保育に必要なスキルを養う訓練をすることで即戦力として現場で活躍できる技術と志向が身につけることができる。</p>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. はじめに（プロローグ、自己紹介、授業の進め方、保育とは）</li> <li>2. 遊び①（手遊び①基本編）、連絡帳が書けるようになるスキル</li> <li>3. 遊び②（手遊び②基本編）、連絡帳が書けるようになるスキル</li> <li>4. ゲストスピーカーによる現場での話し</li> <li>5. 遊び③（手遊び③基本編）、連絡帳が書けるようになるスキル</li> <li>6. 遊び④（手遊び④基本編）、連絡帳が書けるようになるスキル</li> <li>7. 遊び⑤（手遊び⑤発展編）、子どもを見る視野が広がるスキル</li> <li>8. 遊び⑥（手遊び⑥発展編）、子どもを見る視野が広がるスキル</li> <li>9. 遊び⑦（遊びの理論と組遊び）、子どもを見る視野が広がるスキル</li> <li>10. 遊び⑧（遊びの理論と組遊び）、保護者対応が上手くなるスキル</li> <li>11. 遊び⑨（遊びの理論と組遊び）、保護者対応が上手くなるスキル</li> <li>12. ゲストスピーカーによる現場での話し</li> <li>13. ゲストスピーカーによる現場での話し</li> <li>14. 保育とは（TBS情熱大陸を鑑賞し保育を考える）、保育を楽しむためのスキル</li> <li>15. まとめ（保育ソング）</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<p>教科書……特になし、毎回プリントを配布します。</p> <p>参考書……授業ごとに紹介します</p>		
評 価 の 方 法	<p>授業姿勢・実演での総合評価 講義の出席回数を最大限に評価いたします。</p>		

科 目	絵画造形技法	講 師	なかむら しんいちろう
授業目標	<p>一年次に学んだ基礎力を活かし、多種多様な道具材料を工夫して課題制作を行い造形への理解を深め、表現の幅を広げる。</p> <p>幼児造形の特徴を踏まえ、遊びのなかでの造形活動をのびのびと自由に追体験する。</p> <p>また自らの絵画表現における造形感、応用力を養う。さらに将来の現場指導で実践可能な制作を行い、自信を持って実習に向かえるように準備する。</p> <p>*制作の進行状況を考慮し順序や内容を適宜変更する。</p>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 〈前提講義〉野外授業。素材集め、草花のワンピース制作。押し花制作。造花制作。</li> <li>2. 折り紙の花工作（紙皿）。造形表現のウォーミングアップ。押し花の台紙制作。</li> <li>3. フリスビーと輪投げ制作（紙皿）円盤飛ばし遊びと的的制作（紙皿、紙コップ）</li> <li>4. 積み木遊び、ぴよんぴよんガエル、指人形、ミミガ制作（紙コップ、輪ゴム）</li> <li>5. 海の生き物工作：タコ、イカ、クラゲ、魚（紙コップ、紙皿、スズランテープ、シール）</li> <li>6. 虫制作：チョウ・カタツムリ・不思議な虫（モール、段ボール）</li> <li>7. 音の出るおもちゃ工作：笛、吹き矢制作、くるくる回る人形制作（ストロー）</li> <li>8. 簡単オリジナルミニ絵本制作（消しゴムスタンプ、シール）</li> <li>9. 手作り人形、手作りおもちゃ（ペーパーロール芯）</li> <li>10. 絵の書き方手順テスト</li> <li>11. シーツおばけ・テルテル坊主工作（レジ袋）</li> <li>12. ステンドグラス風切り絵（カラーセロハン、マスキングテープ）</li> <li>13. じゃばら人形工作（紙の加工）</li> <li>14. マンション制作（フェルト）</li> <li>15. 〈まとめ〉作品の片付け</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<p>教科書……特に指定なし</p> <p>参考書……特に指定なし</p>		
評 価 の 方 法	<p>総合的評価。特に授業態度を重視（授業内での作品の完成度。制作に対する意欲と真摯な姿勢、適切な片付け、出席状況）及びまとめノート提出必須。</p>		

科目	保育表現技術・言葉	講師	近藤 千春	
授業目標	1. 子どもの遊びや楽しみの中に存在する、モノ・メディア・スペース等を包括的に捉える概念として「児童文化」をとらえ、子どもの発達におけるその意味や役割を理解する。 2. 人が育ち育てられる為に子どもと大人が創り遊び継いできた伝承遊びと子育て文化。その知恵と愛情の結晶の遊びを自ら楽しむことによって、魅力と底力を体得し、現場での実践力を身につける。 3. 楽しく質の高い児童文化財は子どもを深く満足させ、その育ちをより豊かに支えていく。心地良く文化的な時間を共有し、楽しみ合える保育者を目指したい。			
授業の計画	1. 児童文化とは何か① 体験しよう・おはなし会・子どもの生活世界と文化の関わり 2. 児童文化とは何か② 子ども観の変容・保育の歴史の中で 3. 子どもの発達段階に沿った心のごはん・様々な児童文化財を楽しむ① 4. 〃 ② 5. 〃 ③ 6. 〃 ④ 7. 〃 ⑤ 8. 〃 ⑥ 9. 〃 ⑦ 10. 「実践と発表」① 11. 〃 ② 12. 〃 ③ 13. 〃 ④ 14. 〃 ⑤ 15. まとめとふりかえり	わらべうた (あやし歌・集団 遊び)・えかきうた ④ 手遊び・絵本 ⑤ 昔話の語り ⑥ おはなし遊び ⑦ あやとり・お手玉 など		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……『藤田浩子のわらべうたあそび このゆびとーまれ』藤田浩子編著 <b>参考書</b> ……『ことばと表現力を育む児童文化』川勝泰介他編著 他、資料プリントを配布する			
評価の方法	出席重視。受講態度、実践や課題レポートに取り組む姿勢など、総合的に評価します。			

科目	保育表現技術・幼児体育Ⅱ	講師	平塚 卓也
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・幼児体育Ⅰで学習した内容を発展させ、実践を通しての学習を行う。</li> <li>・幼児期の運動あそびの指導法を学習する。</li> <li>・用具の管理・安全に指導するための留意点を学習する。</li> <li>・運動あそびの指導案を作成し、実践する。</li> </ul>		
授業の計画	1. オリエンテーション 2. ボールあそび 3. フラフーフ遊び・縄あそび 4. マットあそび 5. 跳び箱あそび 6. 平均台あそび・鉄棒あそび 7. 表現あそび 8. 運動会種目 9. 指導案の作成① 10. 指導案の作成② 11. 模擬実践① 12. 模擬実践② 13. 模擬実践③ 14. 模擬実践④ 15. 模擬実践の振り返り・まとめ		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……特に指定なし <b>参考書</b> ……日本幼児体育学会認定 幼児体育指導員養成テキスト『幼児体育―理論と実践― ー〔初級〕第5版〕大学教育出版		
評価の方法	出席、受講態度、レポートによって評価する。		

科 目	保育表現技術・ピアノⅢ	講 師	音楽科担当講師
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ピアノの基礎演奏技術を学ぶ（バイエル96番程度）。</li> <li>・童謡を楽しく弾き歌いできるようになる。</li> <li>・実習に向けて、生活の歌や童謡のレパートリーを増やす。</li> <li>・ピアノ練習を毎日の生活の中で確保できるよう努力する。</li> </ul>		
授業の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション：各自のレベルの把握と課題の決定</li> <li>2. 個人レッスン</li> <li>3.        〃</li> <li>4.        〃</li> <li>5.        〃</li> <li>6.        〃</li> <li>7.        〃</li> <li>8.        〃</li> <li>9.        〃</li> <li>10.       〃</li> <li>11.       〃</li> <li>12.       〃</li> <li>13.       〃</li> <li>14.       〃                    ：実技試験発表曲の徹底練習</li> <li>15. 実技試験</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……1年次に購入したもの <b>参考書</b> ……『始めよう！弾き歌い』及び担当講師の指定するもの		
評価の 方 法	受講態度、出席状況、実技試験等による総合評価		

科 目	保育表現技術・声楽	講 師	木下 裕子
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数々の子どもの歌を通して、歌う事の楽しさを自ら体験出来るよう練習します。</li> <li>・正しい呼吸法、発声法を身につけていきます。</li> <li>・音程、リズムのとり方を学んでいきます。</li> <li>・ハーモニーの体験から、同時に響く相手の声を聞く感覚を養います。</li> <li>・歌唱指導法を学んでいきます。</li> </ul>		
授業の 計 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 歌の為の易しい</li> <li>2. ストレッチと呼吸法</li> <li>3. ヴォイストレーニング</li> <li>4. ↓</li> <li>5. ↓</li> <li>6. ↓</li> <li>7. ↓</li> <li>8. ↓</li> <li>9. ↓</li> <li>10. ↓</li> <li>11. ↓</li> <li>12. ↓</li> <li>13. ↓</li> <li>14. ↓</li> <li>15. ↓</li> </ol> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div style="text-align: center;">             ↓              子どもの歌の歌唱練習              ↓              テスト 課題曲の発表とその練習              ↓              期末テスト              ↓              テストについての所見とレベルアップへの方法           </div> <div style="text-align: center;">             ↓              ソルフエージュ              ↓              ↓              ↓           </div> </div>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……『ポケットいっぱいのうた』教育芸術社 <b>参考書</b> ……特に指定なし		
評価の 方 法	実技試験と受講態度、出席による総合評価		

科 目	保育実習指導Ⅱ	講 師	佐藤 めぐみ
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 保育所実習Ⅰaを振り返り、評価・反省に基づき、課題を理解する。</li> <li>・ 保育所実習Ⅱに向けて、目的意識・問題意識を明らかにする。</li> <li>・ 保育所、保育士の役割について理解を深め、実践する。</li> <li>・ 保育教材の制作・発表を通じ、指導案を立案し実践し評価を行う。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育所実習Ⅰを振り返る(1)</li> <li>2. 保育所実習Ⅰを振り返る(2)</li> <li>3. 実習課題の設定</li> <li>4. 責任実習指導計画案の事例検討と立案</li> <li>5. 指導計画案の作成・模擬実践と振り返り(1)</li> <li>6. 指導計画案の作成・模擬実践と振り返り(2)</li> <li>7. 指導計画案の作成・模擬実践と振り返り(3)</li> <li>8. 指導計画案の作成・模擬実践と振り返り(4)</li> <li>9. 指導計画案の作成・模擬実践と振り返り(5)</li> <li>10. 指導計画案の作成・模擬実践と振り返り(6)</li> <li>11. 模擬実践の相互評価・改善(1)</li> <li>12. 模擬実践の相互評価・改善(2)</li> <li>13. 責任実習指導計画案の作成(1)</li> <li>14. 責任実習指導計画案の作成(2)</li> <li>15. 試験 ※随時、漢字テスト、保育者としての常識などを問う小テストを実施する</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……なし <b>参考書</b> ……授業内で配布したプリントはまとめておくこと		
評価の 方 法	出席状況（無断欠席不可）、授業態度、提出物、発表等による総合評価		

科 目	保育実習指導Ⅲ	講 師	東郷 結香
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1年次で経験した保育所実習、施設実習の振り返りと反省をし、次回の実習に向け課題を明確にする。</li> <li>・ 保育所実習、施設実習で記録した日誌の分析と記入について再度考察し実践につなぐ。</li> <li>・ 2年次の施設実習に向け個別支援計画、指導計画の立案、保育技術、保育知識の見直し、向上に一人ひとり問題意識を持ち意欲的に学び実践につなぐ。</li> <li>・ 施設における保育者の役割、さらには保育者の専門性について課題を明確にして実習に臨む。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション、授業の進め方</li> <li>2. 保育所実習・施設実習の振り返り①</li> <li>3. 保育所実習・施設実習の振り返り②</li> <li>4. 保育所実習・施設実習から見えた課題の明確化①</li> <li>5. 保育所実習・施設実習から見えた課題の明確化②</li> <li>6. 実習日誌の分析</li> <li>7. 実習日誌の書き方</li> <li>8. 施設実習に向けての観察の視点を明確にする</li> <li>9. 施設実習における保育者の専門性を考える</li> <li>10. 個別支援計画と指導計画の作成</li> <li>11. 個人票の作成①</li> <li>12. 個人票の作成②</li> <li>13. 実習課題の作成①</li> <li>14. 実習課題の作成②</li> <li>15. 実習に向けてのまとめ、直前指導</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……授業時に適宜プリントを配布 <b>参考書</b> ……特に指定なし		
評価の 方 法	平常点、授業態度、提出物、実技発表などの総合評価		

科 目	キャリアデザイン	講 師	井守 知義
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・就職活動に向けて、基本的なスキルを身に着ける</li> <li>・これまでの学びと実習経験から就職先（保育所、施設等）の絞り込みをする</li> <li>・公務員試験対策を万全にする</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 進路指導のガイダンス。作文「学校生活を振り返って」</li> <li>2. 自己PRについて。キャリアカードの更新。就職希望調査。</li> <li>3. 就職ガイダンス①（就職に向けて、キャリアデザインセンターの利活用、ビジネスマナー等）</li> <li>4. 就職ガイダンス②（公共機関の利活用、就職フェアについて、求人票の見方等）</li> <li>5. キャリアモデルから学ぶ（卒業生を招いての懇談会）</li> <li>6. 人事採用担当者から学ぶ企業研究①</li> <li>7. 人事採用担当者から学ぶ企業研究②</li> <li>8. 人事採用担当者から学ぶ企業研究③</li> <li>9. 面接試験に向けての心構え（入退出、自己紹介、服装、面接等）</li> <li>10. 自己アピールワークシート作成</li> <li>11. 個人面談・模擬面接①</li> <li>12. 個人面談・模擬面接②</li> <li>13. 個人面談・模擬面接③</li> <li>14. 個人面談・模擬面接④</li> <li>15. 個人面談・模擬面接⑤</li> </ol>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……特に指定なし  <b>参考書</b> ……特に指定なし		
評 価 の 方 法	出席率、提出物、受講態度により評価します		

科 目	クラスルームⅡ	講 師	松森 照幸
授業目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・安定した学校生活を送る上で、必要な留意事項について理解する。</li> <li>・クラス活動を通して、保育者に必要とされるコミュニケーション力、自主性、協調性、責任感、協働の態度等の資質を養う。</li> </ul>		
授 業 の 画	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. オリエンテーション</li> <li>2. 個別面談・グループワーク</li> <li>3. 個別面談・グループワーク</li> <li>4. 個別面談・グループワーク</li> <li>5. 個別面談・グループワーク</li> <li>6. 個別面談・グループワーク</li> <li>7. チャイルド祭について</li> <li>8. 振り返り・後期の学校生活に向けて</li> <li>9. クラス活動</li> <li>10. クラス活動</li> <li>11. クラス活動</li> <li>12. クラス活動</li> <li>13. クラス活動</li> <li>14. クラス活動</li> <li>15. 振り返り・卒業後に向けて</li> </ol> <p style="margin-left: 150px;">} 学校行事等の企画や準備・グループワーク</p>		
教科書 及び 参考書	<b>教科書</b> ……特に指定なし  <b>参考書</b> ……特に指定なし		
評 価 の 方 法	出席状況による評価		